

## 台湾の日本産牛肉輸入解禁

皆川 榮治

### <日本から牛肉輸入解禁>

2001年9月に日本で発生したBSE(狂牛病、牛海綿状脳症)を受け、台湾は即時輸入を禁止しましたが、それ以来16年ぶりに牛肉の輸入が解禁されることになりました。日本ではすでに長期間BSEが発生していないことがその背景にあります。

日本政府もBSEが落ち着いて食用に問題ないと判断し、2004年以後、台湾政府に対し輸入解禁を要請してきましたが、台湾側のガードは厳しく今に至るまで解禁されずに来たものです。

台湾政府は7月18日解禁を発表しましたが、2ヶ月の意見公募後の9月18日に「生後30ヶ月以下」の条件付きで解禁を発表したものです。

台湾では牛肉の消費が伸びていることに加え、台湾人旅行客が日本で食べた牛肉料理の美味しさの経験から日本牛肉への人気が高まっており、牛肉の輸出拡大が期待されています。上記の牛肉輸入が禁止されて以降、密輸品の持ち込みが多く、税関で没収されるケースも多くあったようです。

### <台湾への牛肉輸出のハードル>

ただこれで牛肉の輸出が自由になるかと言えば、なかなかそうばかりとは言えません。それには二つの理由があります。一つは上記の様に「生後30ヶ月以下」の牛肉に限るとの条件があることです。日本で有名なブランド牛はどのブランドも同じですが、食用の牛肉の主なものには30カ月以上の成育牛です。従って今後は台湾に輸出するには「生後30ヶ月以下」の牛肉に限定するものですから、部分解禁ということになります。

二つ目の理由は、台湾に輸出する為には日本での「輸出施設」を台湾が承認する必要があるということです。台湾がこれを承認するには、おそらく施設が出来てから2か月以上がかかるでしょう。従って輸出が再開されるまでにはまだ時間がかかりそうです。

これを受けて斉藤厚生労働大臣は9月18日の記者会見で「早期の施設承認を期待している」として輸出の早期開始を期待しました。

日本産牛肉の輸出額は16年実績で136億円(約2000トン)であり、日本政府にとっても、農林水産物・食品の輸出総額1兆円をかかげる上で伸びの期待できる品目です。台湾での消費量が年々伸びており、人気も信頼も厚いことから、牛肉の輸出を再開すれば需要も大いに伸びることが期待されます。